

（ ）の中の言葉は、内容を把握しやすくするために私が追加したものです。

P 2

「いつでもどこでも（映画）作品を楽しめる環境がもっと浸透すれば、受け手が作品を欲する頻度は上がる。だけど、だからといって、一つ一つの作品を完成させる速度も上げられるわけじゃない」

「いつの間にか、作り手側もその速度に呑み込まれていく。作り方が変わっていく。自分も知らないうちに。」

「その中で、変わらないように努力することができるものは「心。自分の感性。それしかないんだ」

P 3 上段

「世間の風潮が変わり続ける中でも、君の中にある譲れないものを見極めて、それを理解するまで待つ時間が必要だと思っ
た」

【ふるさわ解説】

社会の情報化が進んで、私たちは24時間いつでもどこでも映像作品を楽しめるようになった。

作品の消化スピードが上がり、作り手は「もっと早く、もっとたくさん、もっと面白い」作品を求められるようになった。

だけど視聴者が求めるからといって、ものを作る期間は短縮できるわけじゃない。

「もっと早く、もっとたくさん、もっと面白い」を求められ続けるうちに、いつの間にか作り手は自分の信念・価値観・こだわりを見失ってしまう。判断の軸を視聴者：つまり他人に合わせるようになってしまう。

時代が変わる中で、絶えず「他人の基準に合わせなさい」とプレッシャーを受け続ける中で、私たちが変わらないように努力できる、たった一つのは：心。自分の感性だけなんだ。

「スター」朝井リヨウ

都立日比谷高校（令和四年度大問三）

【あらすじ解説】 2 / 3 ページ

P3 上段

「待つ。ただそれだけのことが、俺たちは、**どんどん下手になっ**ている。」

「受け手は次の新作を待てなくなっ**て**、作り手も**自分の心や感性を把握する過程を待てなくなっ**て、作品を世に放ったところ**ですぐに結果が出ないと不安になっ**て…」

「最終的に、**自分を待てなくなる**。すぐに評価されない**自分自身を信じてあげられなくなっ**て、作品の中身以外のところで認められようとし始める」

P3 下段

「作り手は、**自分の感性を自分で把握する作業を怠っ**てはいけない」

【ふるさわ解説】

インターネットやSNSが普及して、いろいろな意味での「待つ」という行為が、私たちはほとんど下手になっている。

いつでもどこでも娯楽や情報が手に入るため、受け手は24時間それらを欲しがるように**なった**。

受け手におおられて、作る・発信する側はもの**※**を作り込む時間を**短縮せざるを得なくなっ**た。つまり、**自分の心と十分に向き合う時間を確保できなくなっ**た。

※LINEのメッセージから映像作品まで、あらゆるもの

そしてインターネットには、自分の作ったものが瞬時に相手に届いて、その反応が瞬時に自分に返ってくる仕組みがある。そのため**に私たちの心は、「他人からどう評価されるか」に、非常に左右されやすくなっ**てしまった。

他人が評価してくれないと**すぐ不安になる**私たちは、いつの間にか自分の信念や価値観、大切にしているものを置き去りにしてしまう。

自分の心の中に**でなく、他人の心の中に「正解」を求め**るようになってしま**う**。

だから私たちは、自分の心を見つめることを怠**っ**てはいけ**ない**んだ。

過去問読書会〈対話を通して「面白い」を見つける探究型読書会〉

「スター」朝井リヨウ

都立日比谷高校（令和四年度大問三）

【あらすじ解説】 3 / 3 ページ

P3 下段

「質や価値を測る物差しなんて、一番変わりやすい」

P4 上段

「自分が信じ続けているものだって、元を辿れば質も価値もどれくらいのものなのか、本当のところはわからない。でも」

「君が、おじいさんと**沢山の映画を観た時間は確かに存在する**。それは絶対に変わらない本当のことなんだ」

P4 下段

「だから、とにかく沢山（映画を）撮りなさい」

「私の言葉を信じるのではなくて、私の言葉をきっかけに始まった**自分の時間を信じなさい**。その時間で積み上げた感性を信じなさい」

「色んなことを考えながら、**自分の心が見えるようになってくるはずだから**」

「**そうすれば**、どんなことが起きても、自分の価値観を揺るがすような世の中の変化があっても（中略）**迷わなくなる**。（中略）**捨てるものも選べる**。だから」

「この部屋を出た一秒後から始まる時間で、できるだけ沢山のものを積み上げて、私の言葉でなくそちらのほうを信じなさい」

【ふるさわ解説】

世の中の価値観なんて、一番変わりやすいものだ。絶対的に質の高いもの、価値のあるものなんて存在しない。

でも、君が経験したこと、出会ってきた人、そこで過ごした時間は、絶対に変わらないものなんだ。その時君が感じた感情は、誰にも否定できないものなんだ。

だから君は、これから積み上げていく「君の時間」を信じなさい。色んなことを体験して考え続けることで、君の感性…「心」が見えるようになってくるはずだ。

だから私の言葉を信じる——他人の中に正解を求める——のではなくて、君自身の積み上げた経験と時間を信じなさい。そこに、君にとっての正解があるはずだ。

過去問読書会（対話を通して「面白い」を見つめる探究型読書会）

「スター」朝井リヨウ

都立日比谷高校（令和四年度大問三）

読書会のテーマ（例）を中心に解説 1 / 3 ページ

テーマ1..

「だけどいつの間にか、作り手側もその速度に呑み込まれていく。作り方が変わっていく。自分も知らないうちに。」

・その速度＝作品がこの世界を循環する速度＝視聴者が作品を欲する

頻度

・作り手は短期間で作品を作らないと、視聴者につかりされる

・作り手は、時間をかけて「自分の心・感性」を作ることよりも

「他人の評価」を優先するようになってしまふ。自分でも気づかないうちに。



自分の体験に当てはめて考えると、どんな意見が言えそう？

（作文試験、グループディスカッション、推薦入試対策）

テーマ2..

「待つ。ただそれだけのことが、俺たちは、どんどん下手になっている」

・待つことが下手になる＝相手からの反応、リアクションがすぐに返って来ないと、自信が揺らいで不安になってしまふ

例

- ・LINEの返信待ち、既読スルー→スマホを何度も見てしまふ
- ・SNSで発信した時→「いいね」がつかないと不安になる
- ・YouTubeやweb漫画→なかなか更新されないとイライラする
- ・動画の倍速再生→世の中にコンテンツがあふれている

過去問読書会（対話を通して「面白い」を見つける探究型読書会）

「スター」朝井リヨウ

都立日比谷高校（令和四年度大問三）

読書会のテーマ（例）を中心に解説 2 / 3 ページ

テーマ3：

「受け手が作品に触れやすくなるならば、その分、作り手は表現を磨くべきだ。自分自身の見栄えや、自分がどう見えるかというところに心を砕くべきではない。」
— 鐘ヶ江の「感性」

「最終的に、自分を待てなくなる。すぐに評価されない自分自身を信じてあげられなくなって、作品の中身以外のところで認められようとし始める」

読みのヒント→これは文字通りの「感性」の話ではない？

- ・ 作り手：私たち自身
 - ・ 受け手：私たちの周りにいる人
 - ・ 作品：私たちの言葉や行動
 - ・ 表現：自分の能力
 - ・ 見栄え：自分を手っ取り早くかっこよく見せること
 - ・ 感性：「私は〇〇が好きだ」「誰が何と言おうと××は許せない」という、自分らしさ、価値観、自分の中にある軸
- ＝自分の自信の源になるもの

要約すると…

私たちはみんな、

- ・ 「他人に評価されたい」という、強い欲望を持っている
- ・ 「今すぐに評価されたい」という不安感も強く持っている
- ・ でも本当は、時間をかけて自分の能力を磨かなければならない。そうでないと、自分で自分を認めて（信じて）あげられなくなってしまうから。

私の体験例

・ 「有名な〇〇さんとお話してきました！」のようなSNS投稿

（でも、それで自分自身がすごくなったわけではないと、自分では分かっている）

・ 「TOEICで△△点取得」と履歴書に書いた

（でも、実践的な英会話は全然できないことは、自分では分かっている）

過去問読書会（対話を通して「面白い」を見つける探究型読書会）

「スター」朝井リヨウ

都立日比谷高校（令和四年度大問三）

読書会のテーマ（例）を中心に解説 3 / 3 ページ

テーマ4

「作り手は、自分の感性を自分で把握する作業を怠ってはいけない」

「質や価値を測る物差しなんて、一番変わりやすい。」

「君が、おじいさんと沢山の映画を観た時間は確かに存在する。それは絶対に変わらない本当のことなんだ」

簡単に言い換えると）

・ 私たちは、「自分はどんなものが好きなのか」（鐘ヶ江の言葉）について、**自分を見つめる時間を積み重ねるべきだ。**

・ 私たちの価値観はとも変わりにやすい。時代や国によっても変わる。

どんなに大切にしている価値観でも、他人に否定されるとすぐに不安になって、他人に合わせて変化していつてしまう。

・ でも、「経験」だけは違う。**経験は実際に起きたできごとだから、誰が否定しても、絶対に変わらない。**

それが「感性」（≠自分らしさ・自信）の軸になるはずだ。

テーマ5：日比谷高校からのメッセージを読み取る（感想）

「この部屋を出た一秒後から始まる時間で、できるだけ沢山のものを積み上げて、私の言葉でなくそちらのほうを信じなさい。」

・ **2022年、会場で入学試験を受けている「受験生に向けたエール」**のように感じました。

合格・不合格という他者の評価よりも、これからのあなたの積み重ねを信じてください、という。

過去問読書会↳対話を通して「面白い」を見つける探究型読書会

「スター」朝井リヨウ

都立日比谷高校（令和四年度大問三）

好きなフレーズ（例）

1 「どれだけ今はそういう時代じゃないって言われようと、それをおかしいと思う気持ちは譲れない。」

↓鐘ヶ江は「感性を積み重ねてきている」ということが分かる描写

2 鐘ヶ江の心の揺れが伝わってくる、動きの変化

- ・鐘ヶ江のかすかに揺れる低い声は、触れればポロポロと…
- ・誰に対してということもなく、一度だけ頷いた
- ・鐘ヶ江が唾を飲み込む
- ・二つの足の裏がしっかりと地に着いた状態で、
- ・鐘ヶ江は今、黒い画面に映る自分の顔を見ている。

3 会話の文末に、次につながる言葉を一つだけ入れる表現

- 「↳適した公開時期、そのうち。」
- 「↳本当のところはわからない。でも。」
- 「↳どこまで昔の考え方なんだとうんざりするね。だから君は。」
- 「↳捨てるものも選べる。だから。」

4 「雨が上がったことを傘の下から出した掌で確かめるように、そう思った。」

↓尚吾の、鐘ヶ江に対するそつと控えめな優しさ、寂しさ、尊敬の気持ち

5 「初雪の日に、誰もいないオフィスで浅沼に言われたことが蘇る。」

↓回想シーンの時期と気温、天候と、いま鐘ヶ江と話している部屋の静かさを、何重にも重ねた表現。一つの文に、数えきれないほどの情報や対比が重ねられている。